

第

1

部

第4章

いつも近くに 名古屋高速【メッセージ】 ～お客様とともに～

- 第1節 お客様とともに50年
- 第2節 お客様と会社を結ぶ取組み
- 第3節 お客様へのメッセージ



高速 1 号楠線 黒川橋脚ラッピングアート



楠JCT (全線開通記念フォトコンテスト入選作品「♡はあと♡JCT」)



高速2号東山線 丸田町JCT付近（全線開通記念フォトコンテスト入選作品「黄昏の流星」）



名古屋高速道路全線開通記念～わくわくサンキューウォーク～（平成25年11月17日）

第1節 お客様とともに50年

1. 基本となる考え方

公社は、高度経済成長期の急速なモータリゼーションの進展を背景に、公社法に基づく全国初の地方道路公社として昭和45年9月に設立され、令和2年には設立50年を迎えた。この50年の間には公害・環境問題による予算の一部凍結（昭和48年度予算）もあったが、昭和54年に初めての開通（第1期開通、高辻～大高）を迎え、以降、順次開通区間を拡大し平成25年11月23日に整備計画延長81.2kmが全線開通した。

公社の基本となる考え方は、全線開通に先立って制定した経営理念（基本理念、基本方針及び職員の行動指針）に基づいている。この理念や方針、また職員の行動指針が、今日の公社において、何よりお客様に対する姿勢の基本となるものである。

【基本理念】

いつでも「安全」「安心」「快適」な道路サービスを提供し、地域社会を支える名古屋高速を目指します。

【基本方針】

- ・都市交通施設としての役割を果たし、元気な「名古屋都市圏」づくりに貢献します。
- ・お客様を第一に考え、安全・安心・快適な利用環境を提供します。
- ・効率的で透明な事業運営に努め、創意工夫と自己研鑽で常に進化を続けます。

【職員の行動指針】

私たち名古屋高速道路公社職員は、将来にわたって名古屋都市圏に不可欠な社会基盤を支える者として、基本理念及び基本方針に則り、次の行動指針を掲げ、日々の業務に尽力します。

1. 人・物の交流活性化、交通安全、防災力強化、環境保全など都市交通の課題の解決を使命とし、

活気あふれる社会のためになすべきことを常に考えます。

2. 積極的な地域貢献を通じて、地域社会と共生し、末永く愛される名古屋高速を目指します。
3. 名古屋都市圏を担う幹線道路を長期にわたり計画的に維持管理する責務を自覚し、その誇りと心意気を持って職務に取り組みます。
4. 職員全員がお客様の声に誠意をもって耳を傾け、お客様の更なる満足向上のために励みます。
5. 一層の安全対策に努め、お客様に安心して走行していただくことを常に判断基準の中心に置きます。
6. 道路交通情報や道路案内等の充実に努め、お客様が目的地まで確実かつ速やかに到着できるよう快適にご利用をサポートします。
7. お客様からの料金で経営が成り立っていることを念頭に置き、最大の投資効果が得られるようコスト意識を持って、スピード感のある事業実施を心がけます。
8. 更なる信頼の向上のため、高い職業倫理を保ち、的確な情報発信に努め、公平公正な社会的責任を果たします。
9. 職員と組織とがその能力を最大限に発揮できる職場風土をつくり、向上心と創造力で都市高速道路の価値の向上と創出に挑戦します。

この基本理念、基本方針及び職員の行動指針は、平成25年11月23日の全線開通に先立ち、平成25年3月に制定したものである。

2. 「いつも近くに名古屋高速」のキャッチフレーズについて

(1) キャッチフレーズ、デザインロゴ策定への思い

公社では平成25年の全線開通を機に、新キャッチフレーズや新デザインロゴを策定した。

全線開通以後、公社業務も建設投資から道路資産の有効活用や維持管理、サービス向上が主体となっ

ていく。そこで、平成25年3月に「基本理念」「基本方針」「職員の行動指針」を策定したが、新しいキャッチフレーズ及びデザインロゴはこれら基本理念などの浸透を図り、公社のイメージアップ、公社職員のモチベーションアップにつなげる目的があった。また、その思いを外部に発信するという意図もあった。

キャッチフレーズは「いつも近くに名古屋高速」。このキャッチフレーズには、「お客様のいつも近くにいたい。そんな思いでお客様と接し、お客様から接して貰えたらいいな」という思いを込めた。「お客様を一番に考え、お客様とともにある名古屋高速。名古屋の街の一員として、お客様と力を合わせて、元気な名古屋をつくりたい。そして、お客様のいつも近くにいられるよう、名古屋高速はいつまでも進化しつづけたい」という公社役職員の思いが込められている。

デザインロゴは、真っ直ぐな線がっちりとした太い書体が見る人に安心感を与えると同時に、路線図を模したデザインをアイコンとして配置した。アイコンは、都心環状線と放射状に広がる路線図とともに、「名古屋高速道路全線開通」から連想されるキーワード「Change」「Challenge」「Complete」の「C」、そしてOKの「O」を表現している（図4-1-1参照）。



図4-1-1 キャッチフレーズ及びデザインロゴ

(2) キャッチフレーズ、ロゴマーク決定の経緯

公社役職員には、平成24年当時、まもなく全線開通を迎えるに当たって、公社の社風を改善すべきという問題意識があった。

これまで、公社には新規工事、さまざまな工法の工夫など、時代を先取りする「名古屋高速“魂”」とでも言うべき気概があったが、今後は大規模な建設事業を終え、本格的な管理の時代となり、業務とし

ても定型的な作業が中心となっていくと思われていた。そこに、このような気概を持って業務を遂行する要素は以前に比べると少なく、むしろ定型的な作業であるだけに、お役所的な雰囲気になっていく懸念があった。

そこで、公社では社風を改善し、魅力のアップを図るべきだという議論がなされるようになった。今後の中期経営計画の策定に向けてコンセプトを見直し、表彰制度を改善するとともに研修制度を多様化することとした。特定テーマの調査研究を重ねることで「脱・縦割りの課題解決」を身につけ、他機関との人事交流を進め、外部への積極的な発信を行い、積極的なお客様参加型の改善活動を行い、大学等との連携によるリクルート強化など、今後の方向性を模索した。

その後、上記の方向性を具体的に検討し、逐次、担当部署による検討が進んでいった。

キャッチフレーズについては、このような社風の改善過程で議題となり、具現化されていった。役員会決定の最終段階では3案に絞られ、それぞれの意図や思いに関する解説等も踏まえ、「いつも近くに名古屋高速」に決定した。

デザインロゴも、同様の経緯を経て検討が進み、最終案としては2案に絞られ、書体とともに、ナコちゃんマークを置くか、別のアイコンを置くかに絞られた。結果として、ロゴマークには新たなアイコンを置くことに決まり、ナコちゃんマークは別途、発展的に物語をつくって活躍の場を見つけていこうということになった。

3. 50年間での節目の出来事

(1) 時代の変遷と節目の出来事

① 名古屋都市圏の発展と交通環境づくり

昭和45年9月に公社が設立されて50年、公社設立以降の開通延長を10年ごとの節目で見ると、昭和55年には10.9kmであり、平成2年には30.2km、平成12年には41.4km、平成22年には72.0kmと、着実に開通延長を伸ばし続け、平成25年には整備計画延長

81.2km全線が開通した。

名古屋市は公社が設立される直前の昭和44年に人口200万人を突破した。その名古屋市及び愛知県におけるこの50年余年の出来事・イベントを振り返ると、平成元年7月に世界デザイン博が開催され、平成4年10月に愛知芸術文化センターが開業し、名古屋港水族館が開館した。平成9年3月にはナゴヤドーム、平成11年12月にはJRセントラルタワーズが竣工した。平成14年9月にはオアシス21が竣工し、平成17年2月には中部国際空港が開港し、同年3月には愛・地球博が開催された。平成23年3月には名古屋市科学館がリニューアルし、平成29年4月にはレゴランドがオープンした。平成30年10月には名古屋城本丸御殿が復元・完成した。

ものづくりの集積拠点として知られる愛知県及び名古屋市は、ものづくりはもちろんのこと、歴史、文化・芸術、スポーツ、娯楽など多方面において着実に発展してきた。

この50年を振り返れば、名古屋高速道路及び公社にも数多くの節目があった。最大の節目は平成25年11月23日、整備計画延長81.2km全線が開通したことである。その全線開通に向けて、カウントダウンするように4号東海線では部分開通を続けてきた。

時代は令和になり、名古屋高速道路は日平均約34万台にご利用いただく名古屋都市圏における社会経済活動の大動脈となった。公社側、すなわち施設管理者側の視点から見ると、全線開通までは「建設」であったが、全線開通以後は「維持管理」に業務の軸足が大きくシフトし、より快適に利用できる道路環境づくりが重要な課題となっている。

通算通行台数は昭和54年度の第1期開通後、漸次増加した。節目で見ると、1億台の達成は都心小ループ完成後の昭和63年8月7日、10億台の達成は東山トンネル開通後の平成17年3月6日、20億台の達成は全線開通後の平成26年12月12日だった。令和3年3月31日段階では約27億522万台となっている。

(2) 全線開通と記念行事

① 全線開通記念イベント

平成25年11月23日、整備計画延長81.2kmが全線開通した。

11月23日の全線開通記念式典に先立ち、11月17日に近隣住民の方々や一般応募のお客様を対象に「名古屋高速道路全線開通記念 わくわくサンキューウォーク」を開催した(写真4-1-1参照)。

このサンキューウォークでは、ご当地のゆるキャラやNEXCO中日本、愛知県道路公社、(一財)名古屋高速道路協会等の展示ブース出展、愛知県警察本部等の働く車の展示など多くの催しが開かれ、約1万2,000名もの参加があった。

「わくわくサンキューウォーク」は、4号東海線の六番南出入口からきらく橋付近までの往復約6kmで行われた。恵まれた晴天の中、普段は歩くことができない高速道路を歩いたり作業車に触れたり、つかの間の空中散歩を楽しんでいただいた。



写真4-1-1 わくわくサンキューウォーク

その翌週、平成25年11月23日には、全線開通記念式典を実施した(写真4-1-2参照)。

記念開通式典は、午前10時から日本ガイシフォーラムレセプションホールにて開催。その後、4号東海線本線上の港明入口先にてテープカットなどを行った。

愛知県知事・名古屋市長など数多くの来賓の方々をはじめ、10組20名の小中学生とその保護者の方々に招待し、くす玉開披などに参加していただいた。



写真4-1-2 全線開通記念式典

② 全線開通に伴う東海線記念割引

名古屋高速道路では平成25年11月23日の全線開通に伴い、企画割引として「東海線記念割引」を実施した。対象はETC無線通行車で、対象期間は平成25年12月21日から平成26年3月30日までの年末年始を含めた土・日・祝日とした。北行の東海料金所、東海新宝入口、船見入口、港明入口及び六番北入口、南行の山王入口、六番南入口及び木場入口、計8箇所 of 4号東海線の入口から流入した利用において、普通車、大型車ともに通行料金の50%割引を実施した。

なお、本来、企画割引はお客様の満足向上や新たな需要喚起などを目的として、期間や対象を限定し実施したものであるが、「東海線記念割引」は、全線開通を記念するとともに、この全線開通をより多くのお客様に知っていただくことを目的として、最後の開通路線となった4号東海線の入口を対象としたものである。

③ 通算通行台数20億台達成日予想クイズ

名古屋高速道路では平成26年頃には日平均30万台を超えるお客様にご利用いただいていた。そして、平成26年12月12日に通算通行台数が20億台に達した。

その20億台達成日の直前に実施したイベントが「通算通行台数20億台達成日予想クイズ」である。20億台達成直前の平成26年10月23日から11月24日を応募期間とし、郵便ハガキでの応募又は公社ホーム

ページの20億台達成日予想クイズ入力フォームから応募いただくクイズ・イベントであった。

なお、20億台とは、平成25年度末の愛知県内自動車保有台数が約500万台（一般社団法人自動車検査登録情報協会調べ）であり、その500万台に400回ご利用いただいた計算となる。普通自動車が一列に並ぶと、月までおよそ10往復できる距離である。

ところが、20億台達成日クイズは全線開通1周年を記念したイベントという性格があったものの、うまくマスコミに取り上げられず、当初の周知には出遅れた感もあった。しかし、公社としてラジオCM、ポスターやチラシ、懸賞サイトでの紹介や地元機関・団体等のインターネットサイトの新着情報欄への掲載依頼などの広報活動に取り組み、やがて各種の媒体に取り上げられるようになった。その結果、約1箇月の応募期間にもかかわらず、1,458件のご応募をいただいた。通算通行台数20億台達成日を見事的中された方は96名（正解率0.45%）であった。

応募の内訳を見ると、総数の約76%が愛知県外の方であり、県外にも幅広く名古屋高速道路をPRすることができ、また、県外にも名古屋高速道路の存在が広く知られていることが確認できた。

また、公社ホームページからの応募が郵便ハガキからの応募の約30倍もあった。応募の手軽さからインターネットを利用したものと思われるが、情報発信面、お客様との双方向のコミュニケーションの場としてもインターネットの有効性を感じることができたと考えている。

送付いただいた郵便ハガキには、「事故のないように祈っています」など数々の応援メッセージのほか、イラストを描いていただいたものもあった。

通算通行台数20億台達成の当日は、達成したことを広くお客様にお知らせするために、公社ホームページのトップページにその事実を載せ、ラジオCMや各路線に設置されている道路情報板での告知、また横断幕をメ〜テレ玄関前の街路側高欄に掲出したほか、朝の情報番組での紹介等もさせていただいた。

このイベントは、公社初のお客様参加型イベントでもあった。

なお、この20億台達成日クイズに併せて、「全線開通1周年記念フォトコンテスト」も実施した。



図4-1-2 全線開通1周年記念フォトコンテスト及び通算通行台数20億台達成日予想クイズのポスター

④ 全線開通1周年記念フォトコンテスト

全線開通1周年記念フォトコンテストも、公社初のお客様参加型イベントであった。全線開通1周年を記念して、名古屋高速道路に関わる写真をお客様にご応募いただき、フォトコンテストとして披露するというシンプルな記念行事であった。

平成26年10月23日から12月10日までの期間で募集を行ったが、締め切り間際に応募者が8名（20作品）と応募実績が振るわず、期間を平成27年2月10日まで2箇月延長した。当初、応募が振るわなかった理由は応募方法を郵送のみとしたことにあり、期間の延長時から電子メールでの応募も可能にしたところ、最終的には43名（105作品）のご応募をいただいた。

入賞者は公社役職員の投票とし、上位6作品を決定した。入賞作品については公社ホームページ上やネックス・プラザにて作品をご紹介するとともに、入賞者には公社が道路工事等において活用した横断幕を再利用したオリジナルバッグを贈呈した。



写真4-1-3 全線開通1周年記念フォトコンテストの入選作品

(3) 公社設立50周年記念事業

① 名古屋芸術大学との連携協力事業

令和2年9月、公社は設立50年を迎えた。この節目の年に、名古屋高速道路に関わるすべてのお客様に感謝の気持ちをお伝えするとともに、これからも名古屋都市圏の街を支える名古屋高速道路であり続けられるよう「ありがとう50年 これからも この街と」というキャッチフレーズを掲げ、設立50周年記念事業を実施した。

この周年記念事業では新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、感染防止策をとりながら各種のイベントを実施した。その一つとして、公社と同じく令和2年に開学50周年を迎えた名古屋芸術大学とコラボレーションした企画を展開した。

令和8年に開催予定の第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）を控え、競技種目と名古屋の街のイメージを融合させた10種のテーマによるアート作品を若宮大通公園（矢場町交差点）などの名古屋高速道路の橋脚にラッピングし（橋脚ラッピングアート）、名古屋市域の魅力の向上と賑わいの創出により、活気あるまちづくりに貢献した。同様のアート作品はネックス・プラザの壁面においても掲出した（写真4-1-4参照）。

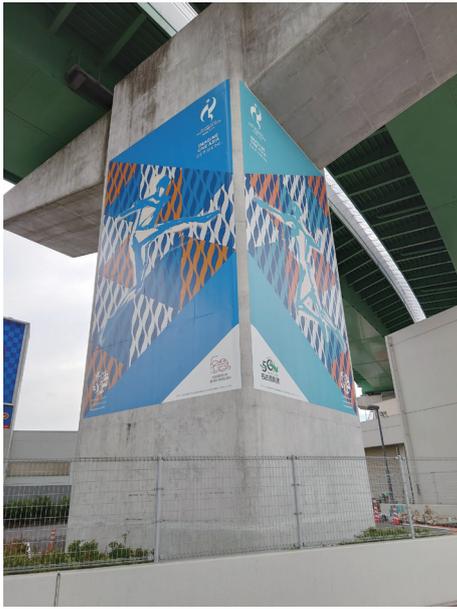


写真4-1-4 橋脚ラッピングアート（港明）

名古屋芸術大学とのコラボレーションでは、設立50周年記念のキャッチフレーズをあしらったロゴマークも制作した。50年間の「ありがとう」の気持ちを伝えるとともに、これからも地域の皆様やこの街と寄り添っていく名古屋高速道路であり続けるという思いを表現している。

また、名古屋芸術大学の歌唱グループ「Rue* Claire」の皆さんによる『君と行きたい』という公社イメージソングも発表した。四季を通じて「名古屋高速を走れば、遠くからでも名古屋のいろいろな場所に行ける」という思いを大切にしたい、元気いっぱいの生き生きした曲である。



写真4-1-5 Rue* Claire

② 各種50周年事業

令和2年の公社設立50周年記念事業は、新型コロ

ナウイルス感染症が猛威を振るう中で万全な感染防止策をとり実施した。

地域貢献活動の一環として、公社と同じく50歳を迎える東山動植物園（名古屋市千種区）のスマトラオランウータン「ネオ」への動物スポンサーとなった。また、名古屋高速道路により親しみを持っていただくため、平成6年度から使用しているイメージキャラクター「ナコちゃん」の着ぐるみを作成し、各種のPR活動を実施した。

令和2年9月21日に愛知県内の民放（名古屋テレビ（メ〜テレ））にて特別番組『ミライナゴヤ』が放送された。タレントの石原良純さんにご出演いただき、知られざる名古屋高速道路のヒミツや50周年記念事業を紹介した。

また、名古屋芸術大学の歌唱グループ「Rue* Claire」とは別に、ZIP-FM毎週金曜日「JOYFUL」内のコーナーで名古屋高速道路にまつわるちょっとした思い出、グッドエピソードを募集して、アーティストのSEAMOさんが、集まったグッドエピソードをもとに50周年記念イメージソング「Highway」を制作した。名古屋高速道路の思い出や未来への期待感の詰まった素敵な曲に仕上がった。

さらに、公社では、これまで支えていただいたすべての皆様に感謝の気持ちを込めて、名古屋高速道路の歴史の一端を紹介する歴史看板を、瑞穂区堀田地区（名古屋高速道路着工の地）と北区萩野地区（萩野暫定出入口のあった地）の2箇所を設置した（写真4-1-6、4-1-8参照）。設置にあたっては、地域の方々及び公職者が参加する小規模な除幕式を、新型コロナウイルス感染防止策をとりながら実施した。また、歴史看板の設置に併せて、名古屋高速道路の着工第一号の橋脚（堀田地区、脚管理番号「大112」）へ記念銘板を設置した（写真4-1-7参照）。



写真4-1-6 堀田地区の歴史看板



写真4-1-7 銘板



写真4-1-8 萩野地区の歴史看板

さらに、名古屋都市圏の発展とともに歩んできた名古屋高速道路の姿を県民・市民の皆様伝えるため、愛知県及び名古屋市の協力のもと令和3年2月27日・28日の両日、金山総合駅コンコース（南口付近）、またその後、3月2日から21日まで、名古屋

都市センター11階の展示スペースにて名古屋高速道路50年の歴史をパネルと映像で綴った「名古屋高速歴史パネル展」を開催した。

公社ホームページでは設立50周年記念の特設サイトを開設した。コンテンツとしては、「ごあいさつ」「50年のあゆみ」「整備効果」「イベントのお知らせ」「名古屋芸術大学コラボ」となっている。

ネックス・プラザ館内においても50周年記念仕様の展示を行うとともに、集客型イベントに代えて「おうちでぬりえしよう」イベントで応募のあったロゴマークの塗り絵を展示した。

この50年史の発刊も公社設立50周年記念事業の一つである。これまでの公社の歴史を振り返り、設立から原則として令和2年度までの50年間の沿革を中心に通史として、また、現在、公社が取り組んでいる事業とその事業に対する思いを編さんしている。併せて、主に小・中学生を対象として、イラストや写真を多用した分かりやすい副読本「いつも近くに名古屋高速」も作成している。いずれも、令和3年度に発刊予定である。



50周年記念事業

～公社と芸術大学のコラボレーション～

名古屋芸術大学

学長 竹本 義明

名古屋高速道路公社が設立50周年を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。

合縁奇縁と申しますが、令和2年（2020）は名古屋芸術大学も開学50周年にあたり、貴公社との50周年記念事業への取組みは、思いがけず素晴らしい機会となりました。この地域でお互いが脈々と培ってきた事業の成果を発表するに相応しい記念事業になったのではないかと思います。

名古屋高速道路が未開通であった頃は、名古屋市内の東西、南北の移動に1時間以上かかっていましたが、平成25年（2013）に全線開通したことにより、それぞれ約50分もの時間短縮が実現しました。名古屋市はもとより東海圏下の基幹道路交通網となり、貴公社のキャッチフレーズ“いつも近くに名古屋高速”をまさに体現し、市民になくてはならないインフラとなりました。

その頃本学では、18歳人口が大幅に減少する平成30年（2018）問題を間近に控え、社会が芸術教育に求める内容が、音楽・美術・デザイン等の専門分野を突き詰めるだけに留まらず、専門分野の融合による新たな芸術の創造へと変化しつつあり、その対応を迫られておりました。

本学では、それらの課題に対応すべく、培ってきた芸術教育をさらに推進・発展させ、新しい芸術大学への再構築に取り組み始めました。それまで芸術系の音楽・美術・デザインの3学部と教育系の人間発達学部の4学部体制でしたが、平成29年（2017）4月に従来の芸術系3学部を統合し、新たに芸術教養領域を加えて音楽・美術・デザイン・芸術教養の4領域をもつ芸術学部として改編しました。

改編当初は、思うように領域を超えた活動が行えませんでしたでしたが、カリキュラムで各領域の学びを自由に学修できる体制を整え、徐々に目指していた学部・領域を超えた活動が行われるようになりました。

ちょうどその頃、貴公社より、50周年記念事業を公社内や一部関係者だけの事業とせず、これまでの歩みを十分社会に周知する事業にしたいとのご意向で、記念事業のコラボレーションのご提案をいただきました。本学にとりましても、まさに新たな教育研究成果を社会に周知する絶好の機会であると捉え、全学協力体制による事業の推進を学内に説きました。

今回の50周年記念事業コラボレーション企画は、公社設立50周年ロゴマークの制作、名古屋高速道路橋脚ラッピングアートの制作及び公社イメージソングの制作というものでした。ロゴマークと橋脚ラッピングアートの企画とデザインはデザイン領域、イメージソングの制作においては、歌詞制作をデザイン領域、楽曲制作と歌唱は音楽領域が担当しました。イメージソング「君と行きたい」は、オーディションで選ばれたボーカルユニット「Rue*Claire（リュ*クレール）」（仏語で「道」の意）が歌唱し、

そのミュージックビデオ制作を音楽領域とデザイン領域が携わることにより、学内が一致団結し、持てる技術、アイデアのすべてを発揮して制作に取り組みました。

高速道路公社と芸術大学のコラボという、これまでにない形で互いに50周年を迎えられたことは、大変意義あることだと思っています。本学のこれまでの歩みの集大成となり、また、新しい芸術の学びの形として目指した専門領域の枠を超えた活動が、このような素晴らしい機会をいただき、実現しましたことを心より感謝申し上げます。

貴社は、道路事業を基本に、安全を考え高速道路の渋滞や事故を減らすことを主眼に置いたこれまでの活動に加え、今後は、利便性の向上と利用者に一層の愛着をもっていただけるような活動に取り組まれるとうかがっております。貴社の設立50周年という大きな節目を機会に、この地域の経済を支える大きな役割を担う貴社の活動に対して、引き続き本学も微力ながら尽力させていただき所存です。

末筆ながら名古屋高速道路公社の一層のご発展と公社職員の皆様方のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



◆50周年記念ロゴマーク

デザイン領域が担当した50周年ロゴマークは、名古屋高速をモチーフとした曲線と50の丸い形を重ねて表現しています。曲線の柔らかさとメリハリある奥行き感で過去から未来への時間の経過を表し、街と市民に寄り添う歴史と未来を作っていくということを伝えています。



◆橋脚ラッピングアート

名古屋市内の黒川、円頓寺交差点、ささしまライブ、若宮大通公園、名古屋みなとアクルス前の5箇所10面に設置された橋脚ラッピングアート。これもデザイン領域が制作を担当しました。「名古屋らしさ」を表現するため設置場所についてリサーチし、それぞれの場所に合ったパターンを作成しています。色彩も場所と関連付けし、カラーパレットを構成、色彩の共通性と幾何学形態によって、10面のラッピングアートそれぞれに連動性を持たせています。アジア競技大会を連想させるスポーツのイメージは、墨で描いたシルエットにして躍動感とアジア競技大会開催の期待感を表現しています。



◆50周年記念イメージソング

高速道路公社等では初の試みとなるイメージソング制作。この課題に取り組むため、本学の教育資源を結集しました。歌詞を担当するのは小説や脚本を執筆することを学ぶデザイン領域文芸・ライティングコース。複数制作された歌詞に作曲を担当したのは音楽領域サウンドメディア・コンポジションコース。歌唱、演奏と録音は音楽領域の声優アクティングコース、ポップス・ロック&パフォーマンスコース、サウンドメディア・コンポジションコース等の名古屋芸術大学全体でイメージソングの制作を担当しました。出来上がったイメージソングは、高速での心地よい走りや景色をイメージした明るい曲に仕上がりました。



第2節 お客様と公社を結ぶ取組み

1. 名古屋高速道路公社広報資料センター（ネックス・プラザ）

ネックス・プラザは、お客様への情報の提供、公社事業の積極的な紹介・啓発を目的とした施設である。平成25年11月の全線開通後はその目的に加え、お客様や地域社会に名古屋高速道路をより身近に感じていただくための広報展示施設として運営している。

ネックス・プラザは、開設から数度の改修を行っており、平成18年3月に2階展示室を閉鎖し、1階に施設を集約した。平成23年3月には施設の縮小及び一部改修を行った。そして平成29年3月には施設の一部老朽化や公社事業の変遷に対応して、施設を全面的に見直してコーナーの増設等の改修を行い、リニューアル・オープンした。

リニューアル・オープンのコンセプトとしては、「見て・触れて・体験する」ことができる施設であること、名古屋高速道路を楽しみながら学ぶことができることを心掛けた。

なお、このリニューアル・オープンに当たっては、「特別企画！ ネックス・プラザ見学ツアー」を開催し、参加者の方々には案内標識板をあしらったオリジナルタオルを進呈した。

① ネックス・プラザでのイベント

ネックス・プラザで行われるイベントには、平成10年度から主に夏休み時期と秋の行楽シーズンに開催している「ネックス・プラザ フェスティバル」がある。夏のフェスティバルは平成15年度から令和元年度（令和2年度は新型コロナウイルス感染防止のため中止）まで合わせて23回開催した。秋は、開館記念日や北区民まつりに併せ（平成28年度より秋のフェスティバルに名称を変更）、平成10年から令和元年度（令和2年度は新型コロナウイルス感染防止のため中止）までに合計23回開催した（平成18年度は回数券払い戻し業務により中止）。

令和元年度の「夏休みフェスティバル」は7月25日～28日に開催し、高速道路の維持点検を体験する「名古屋高速点検隊」、工作教室、はたらくクルマの展示、パフォーマンス集団・クラウンミントのパフォーマンス、交通管制室の見学など、盛りだくさんのイベントを実施した。

また、JAF（（一社）日本自動車連盟）共催による「名古屋高速道路安全運転のすすめ」という講習会は、平成26年度から令和元年度までに季節を変えて6回開催している。同講習会は平成29年度に名称を「名古屋高速道路の走り方のコツ講習会」と変更した。

愛知県ITS推進協議会が主催する「あいちITSワールド」に出展するなど、ネックス・プラザを離れての広報活動も積極的に展開している。



写真4-2-1 平成31年の夏休みフェスティバルのチラシ

② ネックス・プラザのこれから

ネックス・プラザでは、地域の方々に公社事業をより広く紹介し、地域社会の一員としての社会的責任（CSR）や社会貢献の観点からの利活用に取り組んでいる。その大きな柱の一つが、小中学校の社会見学や総合学習など学校教育等における「体験型」学習などでの利用である。令和元年度は3万3,373人（1日平均119人）、令和2年度は、1万8,018人（1日平均72人）にご利用いただき、小中学校の総合学習利用などでは、令和元年度は218団体、令和2年度は45団体にご利用いただいた（令和2年度は、新

型コロナウイルス感染拡大予防のため、やむを得ず休館日を設けたための減少)。



写真4-2-2 小中学生の「体験型」学習などでの利用

2. 名古屋高速お客様センター及びホームページご意見箱

(1) お客様センター

① 開設から現在までの歴史

「名古屋高速お客様センター」は、平成18年4月に開設した電話窓口である。名古屋高速道路上で発生した事故や故障、渋滞などの最新の道路交通情報のご案内や高速道路料金・ETC割引など、名古屋高速道路のご利用に関するさまざまなお問い合わせに対し、専門のオペレータが親切、丁寧にお答えするとともに、お客様のニーズを的確に捉え、最適なサービスを提供している。

年末年始を除く毎日9:00～19:00に受け付けている。

② 問い合わせ傾向の変化

これまでお客様センターに寄せられたお問い合わせ内容については、公社で分類整理して、公社ホームページご意見箱とともに、公社ホームページの「そこが知りたい 名古屋高速Q&A」の充実にも役立っている。

なお、近年お客様の名古屋高速道路に関する情報入手の手段が電話からインターネット等に移行してきたことに伴い、問い合わせ件数自体は減少傾向にある。お客様センターへの問い合わせ及び公社ホームページのご意見箱のここ数年の受付件数は、平成

29年度には1万6,770件(日平均47件)あったが、平成30年度には1万4,077件(日平均39件)、令和2年度には1万1,254件(日平均31件)と減少傾向となっている。



図4-2-1 お客様センターと公社ホームページご意見箱の受付件数

(2) 公社ホームページご意見箱

ホームページご意見箱は平成13年12月にホームページ上に開設した。平成18年3月からは、お寄せいただいたご意見・ご要望に対しては、ご意見の内容に応じて個別に回答している。

3. モニター、お客様満足度調査、お客様の声の反映

(1) モニター制度とお客様満足度調査

① 名古屋高速道路モニター

名古屋高速道路をご利用いただくお客様から毎年約50名を名古屋高速道路モニター(モニター)として募集している。

モニターに年1・2回集まっていただくモニター会議を実施したり、モニター調査として名古屋高速道路の料金制度や維持管理の状況などについてアンケート調査を実施し、さまざまなご意見をいただいている。

② お客様満足度調査

公社では、名古屋高速道路に関するお客様ニーズの把握やサービスの向上を図るため、お客様満足度調査を毎年秋頃に1箇月ほどかけて実施している。調査で得られたお客様のご意見・ご要望を各種施策に反映させ、総合的な満足度の向上に取り組んでい

る。

お客様満足度については「満足」から「不満」まで5段階で評価いただき、毎年度3.60以上の評価をいただけることを目標にしている。

令和2年度の調査は、9月17日～10月16日の約1箇月間、主要な料金所などでの調査票の配布及びインターネットによるアンケートを実施した。12,717件の回答を得て、総合満足度は3.57であった。回答の内訳は「満足12.6%」「やや満足51.7%」「どちらとも言えない19.2%」「やや不満12.6%」「不満3.9%」であり、「満足」「やや満足」とご回答いただいた割合は64.3%であった（図4-2-2、図4-2-3参照）。

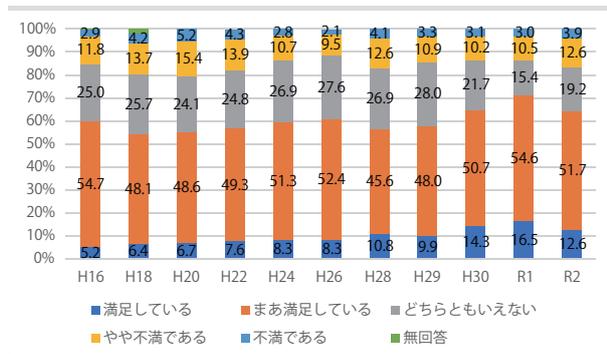


図4-2-2 お客様満足度調査結果の推移

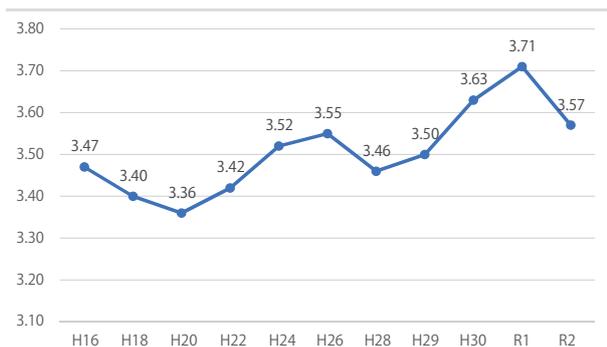


図4-2-3 お客様満足度調査総合満足度の推移

③ 女性意見交換会（ウーマン・ブレイン）

平成24年11月から平成25年2月にかけて名古屋高速道路について女性からの意見を伺うことを目的として、女性学識経験者を座長に、女性モニター及び公社女性職員により構成される女性意見交換会（ウーマン・ブレイン）を開催した。

ウーマン・ブレインでは、名古屋高速道路にカー

ブや分合流が多く、「怖い」「難しい」「よく分からない」などといった声があることから、これらを補う方法について女性視点からのご意見を伺い、平成25年2月に「より安全で利用しやすい名古屋高速道路を目指した提言書」（提言書）が提出された（写真4-2-3参照）。

提言書に基づいて、平成25～27年度の3年間にわたり「より利用しやすく」を目指した取組み（ドライバーに伝わる情報提供、わかりやすい案内標識や看板等）、「より安全に」を目指した取組み（デザイン的な視点による安全対策の取組み等）及びお客様意見への取組みを実施した。



写真4-2-3 名古屋高速道路女性意見交換会の提言

(2) お客様の声の反映

お客様からお寄せいただいたご意見・ご要望を公社全体で広報広聴会議を通じて共有・分析し、お客様ニーズに基づいたサービスの充実や改善につなげている。

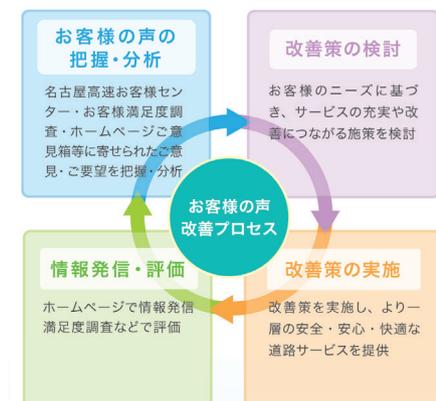


図4-2-4 お客様の声の反映の仕組み

改善事例の一つとして、「黒川出入口カーブ内の案内看板」のケースがある。お客様から「黒川出入口はぐるぐるカーブしているため、交差点手前で右左折2車線に分岐していることが事前にわかりづらい」というご意見が寄せられた。そこで社内では改善課題の抽出、改善策の検討・作成、改善策の実施を進め、右左折分岐することを早い段階で知らせるべく、黒川出口カーブの手前に設置している2箇所の看板の案内を変更した(図4-2-5参照)。このことにより、黒川出入口のカーブに入る早い段階で、2車線になっていることがわかるようになった。

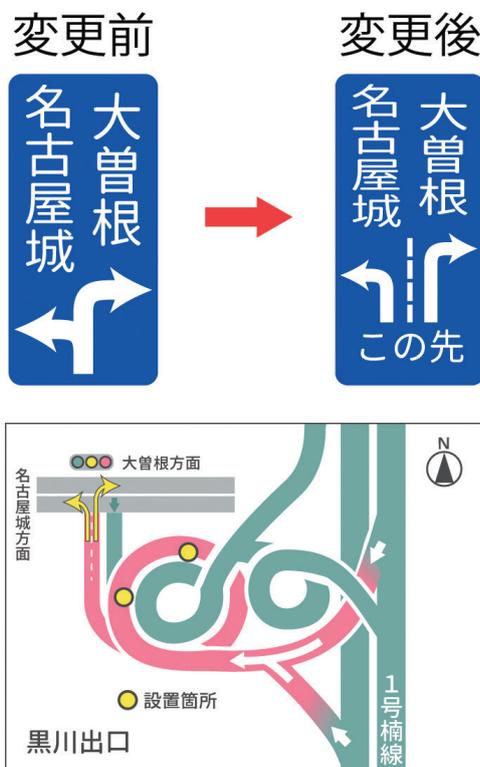


図4-2-5 黒川出入口案内板

第3節 お客様へのメッセージ

1. これからも「いつも近くに名古屋高速」

(1) 50周年の「ありがとう」

名古屋高速道路は日々ご利用いただいているお客様とともに発展してきた。このまちに住む方々や地元企業の皆様、建設・維持管理に携わる施工業者や関係機関等の皆様のご支援を受けて事業を進めてきた。

平成25年11月23日には、整備計画延長81.2kmが全線開通し、昭和54年の第1期開通(10.9km)時に約1.3万台であった日平均交通量は令和元年度には約33.9万台に上り、設立から50年を迎え、名古屋高速道路は名古屋都市圏を支える重要な道路ネットワークの一部を担っている。

50周年の節目に策定した新たなキャッチフレーズは、「ありがとう50年 これからも この街と」である。これまで名古屋高速道路及び公社を支えていただいたすべての皆様に「ありがとう」の気持ちをお伝えするとともに、これからもこのまちのサポーターとして一致団結し、人・物の流れを支え続け、より安全・安心・快適な道路サービスを提供し続けるように進化していくことを宣言する意味を込めている。

この「ありがとう」の気持ちは、お客様へ、まちへ、パートナーへ「ありがとう」という意味を込めている。

お客様へ「ありがとう」。名古屋高速道路は日々、お客様にご利用いただくことにより、道路ネットワークとしての価値を高め、名古屋都市圏、中京圏、ひいては我が国になくてはならない存在として、地域社会に深く根付いてきた。名古屋高速道路をご利用いただいているすべてのお客様へ感謝をお伝えしたい。

まちへ「ありがとう」。公共事業は沿線住民の方々と地元企業をはじめとする「まち」の皆様のご理解・

ご協力のもとに成り立っている。また、名古屋高速道路は重要な輸送路として「まち」の発展を支えてきた。名古屋高速道路とともに歩む「まち」へ感謝をお伝えしたい。

パートナーへ「ありがとう」。これまで建設や維持管理に携わった施工業者や関係機関の方々に感謝をお伝えしたい。また、公社では、OB・OGらのパートナーから継承された知識や技術を礎とし、現役の役職員が一体となり、事業に取り組んでいる。名古屋高速道路で協働するすべてのパートナーへ感謝をお伝えしたい。

2. 社会的責任の遂行

(1) 事業運営における信頼性のより一層の向上

名古屋高速道路の今後の役割において最も重要なのは、社会的責任の遂行であると捉えている。

① コンプライアンス等の徹底

社会を取り巻く環境の変化を背景に、コンプライアンス（法令遵守）やハラスメント防止に対する関心がますます高まっている。公社では、職員の意識啓発を図る取組みとして、全職員に対してコンプライアンス研修等を実施している。

② 安全管理

公社では、工事事故を防止するため、工事安全に係る法令遵守を徹底するとともに、公社監督員による安全パトロール等を計画的に実施している。

また、有識者による工事現場視察等を実施する安全管理アドバイザー会議や工事関係者等を対象とした安全管理研修会を開催するなど、予防対策として工事事故の再発防止に取り組んでいる。

③ 工事の品質確保と施工プロセスの着実な実施

品質確保については、総合評価落札方式を導入し、評価基準や入札参加資格を見直すとともに、低入札時の対応を強化することで、さらなる品質の向上を図っている。

現在、公社では工事の品質確保を図るためPDCAサイクルに基づいた施工プロセスを着実に実施している（図4-3-1参照）。

P…Plan（計画）。基準・要領等に基づく施工計画。

D…Do（実行）。施工計画に基づく施工。

C…Check（評価）。工事実施状況の確認。中間検査や竣工検査。

A…Action（改善）。新材料・新技術の導入。基準・要領等の改定。

このPDCAサイクルにおいて、生産性の向上や働

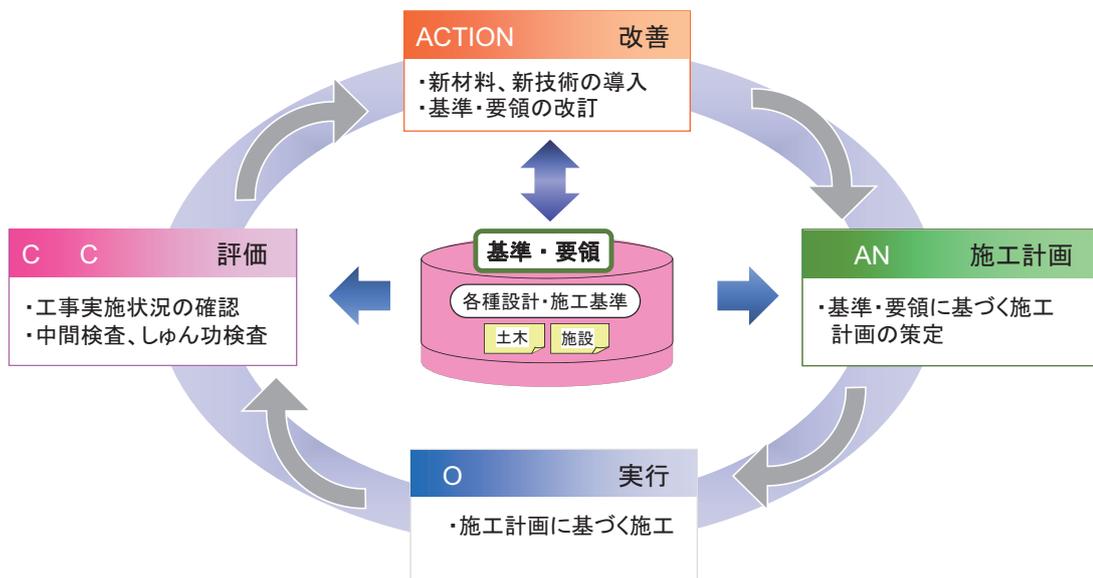


図4-3-1 工事の品質確保のためのPDCA

き方改革を推進するため、ICT（情報通信技術）の活用や新材料・新技術等の導入に積極的に取り組み、現場の施工管理に反映している。また、工事期間が複数年にわたる大規模修繕工事等は、継続的に品質を確認していくことも重要であるため、進捗に応じた中間検査を定期的実施している。

④ 情報セキュリティ対策の強化

情報セキュリティ事案の発生を防止し、万一の事案発生時には適切に対処できるよう、職員に対して情報セキュリティ講習会を毎年開催している。このような講習会に適宜参加していくことで、情報セキュリティに関する知識の習得と意識の向上を図っている。

(2) 環境保全への取り組み

社会的責任の遂行において環境保全も重要な観点である。近年、高速道路事業における環境への配慮の意識が高まってきており、公社でも環境への影響・負荷を軽減する取り組みを進めている。

① 脱炭素社会実現への貢献

高速道路ネットワークの整備は、高速道路上での定常走行や一般道路の渋滞緩和などにつながり、環境負荷の低減に貢献している。一般道路から名古屋高速道路へ転換し、ご利用いただくことで、CO₂の排出量は年間16万t削減される試算となる（令和元年度日平均利用台数33.9万台/日での試算）。

また道路照明のLED化にも取り組んでいる。LED照明は、従来のナトリウム照明と比較して消費電力が少なく、CO₂排出量の削減に貢献する。名古屋高速道路では、東山トンネルの照明のLED化を平成30年度に完了しており、引き続き、全路線を対象に大規模修繕工事に併せて照明のLED化を推進している（写真4-3-1参照）。

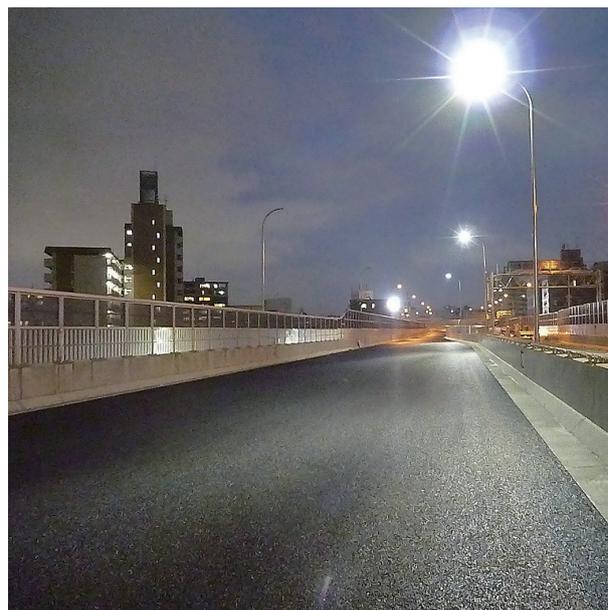


写真4-3-1 名古屋高速道路のLED照明

② エコドライブ啓発活動の実施

環境保全に関しては、名古屋高速道路をご利用されるお客様にご協力いただく面が多分にある。公社では、騒音や大気汚染等の環境問題の改善のため、環境負荷の軽減につながる定速での走行や緩やかなアクセルワークを心掛けていただくことを「エコドライブ啓発活動」として、チラシや各種イベントでの掲示等で呼びかけている。また公社ホームページ、道路情報板等による「優しく静かな運転」の呼びかけなども、積極的に発信している。

③ そのほかの環境保全の取り組み

公社では上記の環境保全策のほか、廃材を再利用し環境への影響を軽減する試みや、生態系や景観に配慮した環境保全を実施してきた。例えば、使用済みの横断幕を再利用したオリジナルバッグやネームプレートの制作、パイプ照明（道路照明の光が名古屋城の外堀に生息するヒメボタルへ届かないように配慮された照明）の採用、さらには東山公園区域内の緑橋換気所の壁面緑化、一部の料金所の屋上緑化などがある（写真4-3-2、4-3-3参照）。



写真4-3-2 横断幕を再利用したネームプレート



写真4-3-3 4号東海線船見料金所の屋上緑化

環境保全は、公社が取組みを進めているSDGsのさまざまなターゲットと深く関わっており、その理念に沿って、今後も取組み内容の充実や拡大に努めていく。

(3) 積極的な情報発信

① 地域社会との共生

名古屋高速道路では、地域に根ざした貢献活動等を通して、地域社会とのつながりを深めるとともに、名古屋高速道路へのご理解と信頼をより一層深めていただけるよう努めてきた。その核となるものの一つが積極的な情報発信であると考えている。

その一つとして、自治体、大学などへの技術提供や情報発信があり、地域の道路インフラの整備や維持管理に役立terため、経験に裏づけられた公社の技術力を自治体へ提供している。また、地元（愛知県・名古屋市）の大学で講義を行うことなどを通し

て、次代を担う学生等へ社会基盤整備の役割や重要性、技術者としての心構えなどを伝えてきた。

② 多様な媒体による情報発信

公社では、公社の取組みの内容が社会やより多くのお客様にお届けできるよう、多様な媒体を適切に用いて、的確でわかりやすい情報を積極的に発信している。公社ホームページ、FacebookやTwitterなどのSNS、またラジオなど、情報の内容に応じて各種の媒体を効果的に活用し、道路交通情報や工事広報、また企業情報をはじめとした名古屋高速道路に関するさまざまな情報をよりわかりやすく、タイムリーにお知らせしてきた。

(4) SDGsと名古屋高速道路公社

① SDGsとは

SDGs (Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」) は、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。

SDGsは、17のゴール（図4-3-2参照）・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っており、発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものである。日本政府も内閣総理大臣を本部長、全閣僚を構成員とするSDGs推進本部を設置して積極的に取り組んでおり、各自治体や企業等の間でもSDGsに対する関心が高まり、取組みが拡大しているところである。



図4-3-2 SDGs17のゴール

② 取組みの目標

公社では、経営理念において、いつでも「安全」「安心」「快適」な道路サービスを提供し、地域社会を支えることを目指すと掲げ、事業を行っている。SDGsは、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であり、その目指すところは公社の経営理念と重なり合う。このことから、公社事業を通じてSDGsの達成に貢献していく。

③ 取組みの方法

公社では、経営理念を具体化し実現するため、公

社全体で取組みを注力している中期経営計画の各施策において、SDGsが定めるゴールとのつながりを明らかにし、中期経営計画の施策を推進することを通じて、SDGsへの貢献を図っている(図4-3-3参照)。

社内の全部長を構成員とするSDGs推進チーム会議を設置し、SDGsに関する理解、浸透及び意識向上を図るとともに、同メンバーの中期経営計画推進チームと一体となって、SDGsの達成に貢献する取組みを進めている。

図4-3-3 SDGsと中期経営計画(2019-2021)の関わり

第1章 さらに使いやすい名古屋高速 ~元気な「名古屋都市圏」づくりへの貢献~					
取組項目		目標 (取組内容)	2021年度※	取組項目に 関連するSDGs	
1	都心への アクセスの 向上	(1) 都心へのアクセス 向上の取組み	名古屋駅周辺交通基盤整備方針に示された 出入口等の追加・改良等の事業化	  	
		(2) 高速道路ネット ワークの更なる充実	「南渡り線」の事業化に向けた検討及び 関係機関等の協議・調整		
2	ネットワーク 機能の発揮	(1) 名古屋西JCT建設 工事の着実な推進	目標1 名古屋西JCT整備完了	2020年度 整備完了	 
3	より利用しや すい料金	(1) 新たな料金体系への 取組みの推進	お客様がより利用しやすい料金体系の実現		
第2章 さらに確かな名古屋高速 ~安全・安心の徹底~					
取組項目		目標 (取組内容)	2021年度※	取組項目に 関連するSDGs	
1	更なる交通 安全対策の 実施	(1) 交通安全対策の 継続的な実施	目標2 総事故件数	750件	  
		(2) 逆走車や歩行者等の 立入対策の実施	目標3 死傷事故率	5.6件/ 億台キロ	
		(3) 交通安全啓発活動の 実施	目標4 対策箇所数	15箇所 (累計)	
2	大規模修繕の 着実な推進	(1) 大規模修繕計画に 基づく事業の推進	目標5 大規模修繕完了延長	60% (累計)	  
		(2) 新技術を活用した 維持管理の高度化・ 効率化	目標6 橋梁の点検率	54% (累計)	
3	維持管理の 高度化・ 効率化と 着実な点検・ 補修	(1) 新技術を活用した 維持管理の高度化・ 効率化	目標7 道路構造物保全率	90%	
		(2) 着実な点検の実施と 点検の精度向上	目標8 快適走行路面率	97%	
		(3) 計画的な維持補修工事 の実施	目標9 交通規制が必要な作業を集約した「リフレッシュ工事」の計画的な実施		

4	道路法違反車両に対する取締・指導の強化	(1) 取り締まりの強化	目標8-2 愛知県警高速道路交通警察隊との合同取り締まり回数	6回
	5	南海トラフ地震を始めとした自然災害への対応力向上	(1) 災害時の業務継続に向けた防災拠点整備の推進	目標9 受変電施設の津波浸水対策完了(短期)
目標10 整備部社屋の改修				2020年度改修完了
目標11 防災拠点の電源確保				供用開始
		(2) 実践的な訓練による災害対応力の向上	目標12 各種訓練の実施	実施

第3章 さらに走りやすい名古屋高速 ～快適さとサービスの向上～

取組項目		目標 (取組内容)	2021年度※	取組項目に関連するSDGs	
1	継続的な渋滞対策の推進	(1) 都心環状線の渋滞対策	目標13 都心環状線の渋滞損失時間	19.5万台・時	      
		(2) 小牧北出口、一宮東出口・一宮IC連絡路における渋滞対策	渋滞要因の調査・分析及び関係機関との協議等		
2	交通事故・工事に伴う渋滞の縮減	(1) 交通事故処理に伴う渋滞時間の短縮	目標14 交通事故処理に伴う渋滞時間	68分以内/件	
		(2) 工事に伴う渋滞の発生及び影響の軽減	目標15 工事に伴う渋滞時間	40時間/年	
3	雪氷対策の強化	(1) 降雪・積雪時等の通行確保の強化	監視体制強化による雪氷作業への迅速な対応及び早期の入口閉鎖等		
		(2) 雪氷作業の効率化	目標16 雪氷作業の効率化の推進	実施	
4	道路交通情報提供の充実	(1) 道路情報板の視認性向上	目標17 道路情報板の大型マルチカラー化	53% (累計)	
		(2) ETC2.0の普及促進	目標18 ETC2.0利用率	25% (累計)	
5	お客様とのコミュニケーションの推進	(1) お客様の声の反映	お客様ニーズに基づいたサービスの充実と改善		
		(2) お問い合わせへの的確な対応	お客様センター等におけるより速やかで適切な応答		
		(3) 料金所サービスの向上	お客様への接遇の向上と迅速で正確な料金収受の確保		
		(4) お客様満足度の向上	目標19 総合満足度 ※総合満足度：お客様満足度調査による5段階評価の点数	3.80以上	
6	自動運転への対応	(1) 自動運転の実用化・普及への適切な対応	自動運転の技術開発に関する調査研究・協力		

第4章 社会的責任の遂行					
取組項目		目標 (取組内容)	2021年度※	取組項目に 関連するSDGs	
1	工事の品質確保 と安全管理	(1) 施工プロセスの着実な 実施	工事品質を確保するためのPDCAサイクルに 基づいた施工プロセスの着実な実施		        
		(2) 品質確保に向けた 契約制度の改善	目標20 入札参加資格の見直し、 低入札時の対応強化実施	実施 2019年度 低入札時の対応 強化実施済	
		(3) 工事事務防止に 向けた安全管理の 推進	各種安全パトロールの計画的な実施及び 安全管理アドバイザー会議等の実施		
2	環境保全への 取り組み	(1) 道路照明LED化の推進	目標21 道路照明LED化	39% (累計)	
		(2) エコドライブ啓発 活動の実施	”環境にやさしい”名古屋高速道路の積極的な 利用及びやさしく静かな運転の心がけ等の 呼びかけ		
3	事業運営の 信頼性向上	(1) コンプライアンス等の 徹底	目標22 コンプライアンス等に関する意識度	100%	
		(2) 情報セキュリティ 対策の強化	目標23 情報セキュリティに関する意識度	100%	
4	地域社会との 共生	(1) 自治体や大学等への 技術提供・情報発信	社会基盤整備の役割や重要性、技術者としての 心構えなどの伝承		
		(2) ネットクス・プラザを 活用した地域社会との 交流	目標24 ネットクス・プラザ利用団体数	70団体以上	
5	積極的な情報 発信	(1) 多様な媒体による 情報発信	ホームページ・SNS・ラジオ等の媒体を効果的に 用いた、名古屋高速に関する様々な情報の提供		
		(2) 設立50周年記念事業 の実施	目標25 50周年史の発刊	発刊	
第5章 経営基盤の強化					
取組項目		目標 (取組内容)	2021年度※	取組項目に 関連するSDGs	
1	～財務基盤 強化・経営 合理化～ コスト縮減・ 効率化と 戦略的な 資金調達	(1) 予防保全等による 構造物の長寿命化	ライフサイクルコスト低減による大規模修繕等 の着実な実施及び技術基準の見直し		
		(2) 効率的な維持管理	新技術の積極的な活用による維持管理コスト 増大抑制のための効率的な維持管理の実施		
		(3) 工事関係書類等の削減	目標26 工事関係書類等の削減の実施	実施	
		(4) 積算業務の効率化	主要資材の適正単価の採用、積算基準の見直し ／新積算システムの構築		
		(5) 光熱費の縮減	道路照明及び整備部社屋改修に合わせた事務所 照明のLED化による消費電力量の削減		
		(6) 戦略的な資金調達	目標27 個別投資家訪問数	50件以上	
2	～組織基盤 強化～ 職員と組織の 能力発揮	(1) 職員の人材育成及び 技術力等の向上	目標28 公社業務に関連した資格取得者数	15名以上 (累計)	
		(2) プロジェクトの推進を 図るための組織づくり	重点的な人員配置及び能動的・効率的な 組織づくり		
		(3) ワークライフバランス の推進	目標29 年次休暇の平均取得日数	14日	
3	～事業推進 基盤強化～ 確実な事業 推進	(1) 重要施策間の連携 強化	事業間調整会議による工程等の共有及び 一体的な調整・課題解決		

3. まとめ

① 設立50周年のロゴマーク

公社設立50周年のキャッチフレーズは「ありがとう50年 これからも この街と」、これまで名古屋高速道路を支えていただいたお客様や地域の方々、事業へのご理解・ご協力に「ありがとう」の気持ちをお伝えするとともに、これからは私たちのこの街のサポーターとして一致団結し、人・物の流れを支え、より安全・安心・快適な道路サービスを提供し続けるよう進化していく思いを表している。

公社設立50周年のロゴマークは、名古屋高速道路の形をイメージした曲線と50の丸い形を重ねて表現している。50周年の「ありがとう」の気持ちをお伝えするとともに、これからはずっと地域の皆様やこの街と寄り添っていく名古屋高速道路であり続けるよう、曲線を名古屋高速道路に見立ててシルエットにこの街を描き、ともにこれからの未来をつくっていく思いを表している（図4-3-4参照）。

「ありがとう50年 これからも この街と」のロゴマークに込めた思いを体現するように、名古屋高速道路に関わるすべての皆様に感謝の気持ちをお伝えし、これからは愛知・名古屋の街を支える名古屋高速道路であり続けられるよう、職員一丸となって「安全」「安心」「快適」な道路サービスの提供に全力で取り組んでいく。



図4-3-4 50周年のキャッチフレーズ及びロゴマーク

公社では、日々、名古屋高速道路をご利用いただいているお客様、また、名古屋高速道路とともに発

展してきた地域の皆様や地元企業の皆様、建設・維持管理に携わる施工業者・委託業者・関係機関等の皆様からのご支援により設立50年を迎え、新たに51年目へとスタートが切れたことに、心からお礼を申し上げます。

これからの公社は、名古屋高速道路と名二環を一体として広がる名古屋市周辺の高速道路ネットワークの完成、リニア中央新幹線の開業等を視野に入れ、都心へのアクセスの向上をはじめとした新しい事業に重点的に取り組み、進化する元気な名古屋都市圏を支えていく。

併せて、防災対策や大規模修繕等を引き続き着実に進め、都市交通施設としての基盤をより確かなものとするとともに、既存施設を有効に活用し機能を向上させていく。そのことによって、安全・安心・快適な道路サービスを充実させていく。

② 50年を機に、未来への宣言

これからの名古屋高速道路は、ネットワーク整備の進展を見据え、より利用しやすい道路環境の実現などへの取り組みを推進し、巨大経済圏「スーパー・メガリージョン」の中心となる名古屋都市圏を支える一翼を担っていく。また、ICTをはじめとした技術革新による自動運転の実用化など高度化するニーズにも対応していく。

一方で、地震や津波など自然災害への対応力強化や大規模修繕計画による長寿化の取り組みにより、引き続き、将来に渡って安全を確保する使命を果たしていく。

こうした未来の姿に向かう名古屋高速道路の進化は、発展していく地域社会と支え合い、いつまでも、そしてこれまで以上に「安全」「安心」「快適」な名古屋高速道路であり続けることである。

設立50年を機に、名古屋高速道路はパートナーと培ってきた知識や技術を礎に役職員が一致団結し、名古屋都市圏のより一層の発展に向け、名古屋高速道路をさらに発展させていきたい。

